

会議結果報告書

1. 会議名 令和2年度 第2回 印西市環境推進市民・事業者合同会議
2. 日時 令和2年12月18日（金）9：30～11：30
3. 場所 204会議室
4. 出席委員：岩井会長、白川委員、小山委員、橋本委員、平林委員、福井委員、朝倉委員、三輪委員、川村委員
事務局：黒田、清田（環境保全課）
5. 傍聴者 1名
6. 配布資料
 - ・印西市環境推進市民・事業者会議からの意見（掲載案）
 - ・資料1 印西市環境白書第1章
 - ・資料2 印西市環境白書第3章
 - ・資料3 市民・事業者アンケート調査結果
7. 内容
 - (1) 開会
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 議題
 - ①令和2年度環境白書（案）に対する意見について
事務局：お手元の資料は、前回の会議で皆様より頂いた意見を、基本目標ごとに事務局でまとめたものである。頂いた意見を基に、追加や補足等があればこの場でお願いする。資料では、事務局で意見を取りまとめたものを掲載案として示しているので、そちらを確認頂くほか、元の意見について詳しいお話をお聞かせ願えればと思う。
会長：集約したものだけでも良いので、事務局よりご説明願いたい。
（事務局より、基本目標1について説明）
会長：意見を大幅に変更した、または集約したものだけを説明願いたい。前とまったく同じものは、説明の意味がない。
事務局：どの意見も前とまったく同じにはなっていない。①と②はまとめて1つの掲載案としている。
会長：了解した。
委員：自分で見て、趣旨が違わないかという意見に対して述べれば良いのではないかと。
委員：自分の出した意見についてか。
事務局：他の方の意見が混ざっている場合もあり、いくつかをまとめて掲載案としている。
会長：これは採用しないなど、カットした意見はないのか。

- 委員：掲載案ということでは、例えば⑩はカットされている。
- 事務局：分類で「意見」としているものについては、白書に掲載はせず、ご意見として捉えさせて頂いている。
- 会長：分類がし辛いものとかか。
- 事務局：提案的なものでなく、意見となりそうなものである。
- 会長：事業者からの意見と、市民会議からの意見は、資料からは区別がつかないのか。
- 事務局：皆様の意見をそのまま入れており、事業者も含まれている。
- 会長：どれが事業者または市民かは分からないのか。
- 事務局：この資料からは分からない。
- 会長：それは従来から分類しないのか。
- 事務局：従来からしておらず、そのままである。
- 委員：⑫の括弧はどういった趣旨のものか。これは事務局で迷っているなど、そういった意味なのか。
- 事務局：ご意見として頂く形の内容かと捉えているが、白書に掲載するとしたらこのような掲載案になるかということで、掲載するかは委員のみなさんのご意見を頂ければと考えている。
- 委員：⑨について、これを市民会議の意見として出すのは反対する。これはごく一地域に限っており、市民会議として出すのはふさわしいのか。こういった使い方をするのであれば、もっと印西市には沢山あると書く方が良いと思う。なぜ、ぶらり川巡りの六軒川だけなのか。他にもハイキングコースなどは沢山ある。
- 委員：この意見は私が書いた。私は印西市ではなく他の地域から来ている者であるが、印西市を見たとき最初に感じたことで、商工会の所からぶらり川巡りに乗ったが、普通の川巡りであり、これと言って目に留まるものがなくもったいないと思った。もっと「印西市はこれだ」という見せるものを作って、活用した方が良いと思う。
- 会長：要は印西市の特徴が分かるということか。
- 委員：そうである。他の色々なところの川巡りを見たときは、全然違っている。川巡りの両サイドなどはお金をかけてしっかり作ってある。ただ草が茫々で、木が植わっているのか植わっていないのか、そんなのは折角印西市でやっているのにつまらない。そういうところが勿体ないから、ある程度出来ているところからやっていったら良いのではないかという意見である。それは、工業団地としては関係ない話であるが、印西市を見たときに私が感じたことである。全体的にやろうとすると、どこから手を付けて良いか分からない。まずは1つずつ潰していったらどうか。あくまで私の意見なので的外れかもしれないが、これは全く採用できないなど、皆さんの意見を頂ければと思う。
- 会長：他の皆さんはどうか。
- 委員：ここは今は観光協会が仕切っている場所である。そのため、観光の中心として考

えるということだと思ふ。そうすると、身近に感じるということではそうだと思うが、環境基本計画の中には馴染まないのではと思う。しかもあそこはキショウブを植えおり、そこを、緑を守るとして推進するのはどうかと思う。

会 長：キショウブとは何か。

委 員：とても繁殖、繁茂している黄色い菖蒲のことで、生態系被害防止外来種の中の重点対策外来種であり、本来はあつてはならない花である。そのため、その取組をするのであれば印旛沼や手賀沼など、もっと大きな場所でやっても良いのではないか。仰っていることは分かり、緑などを身近に感じるために川巡りの六軒川を大事にしたいというのも分かるが、個人的には違うかと思う。ただしこれを意見として観光課に伝えることは出来るのではないか。

委 員：今のやり取りを聞いて、これは環境白書なので、環境について誤ったメッセージは伝えない方が良くかと思つた。キショウブの問題を含めて、自然環境保全という方向の発信なら良いが、殊更にこの環境白書で訴えるところではないかと思う。

委 員：特定の名前を出さずに、もう少し漠然としても良いのではないか。

会 長：要は希望として、印西市の特徴がある地域でのイベントだったら良いということか。

委 員：都市計画マスタープランでは、印旛沼から亀成川を通つて手賀沼に通じるコースを散策コースとして作るなどが書いてある。亀成川は出さなくて良いが、例えば手賀沼と印旛沼を活かした水辺に親しむ何かという形で書けないか。

会 長：これは、そういう誤解もあるかもしれないので、文章を変えたらどうか。小山委員が仰つたように、もう少し印西市として特徴的なものを対象に見学会を開いたらどうですかといった文章にしてはどうか。

委 員：このぶらり川巡りは商工会が絡んでおり、商工会の中に市街活性化の実行委員会というのがあり、ここが当初手掛けたものである。目的としては印西市の活性化のために立ち上げ、少ない予算の中から自分たちで免許を取りに行ったり、補助金を申請して船を購入したりと、かなりやりくりし苦労されてここまで来た。今もNPO法人という形で運営されているかと思うが、この中では少ない予算の中でやりくりされており、さっきの花の問題も、環境云々は全く関係ないところで選定されたのではないかと思う。そういうのは、この中で話されている、花を植える際にはこういうものを使ってくださいというのが、下の方まで徹底されていないということに問題点があるのではないか。ここでその花は駄目だというのはなく、下の計画を策定されている方々にも、もし花を植えるのであればこういうものを植えてくださいといった対応をして頂ければ宜しいのではないかと思う。そして具体例がないと、こういった意見はぼやけてしまう。これこそ括弧書きの具体例などを、例として挙げても良いのではないか。

委 員：今話を聞くと、正しくまちづくり推進のためにやられた訳で、水辺を守るとか

の目的ではないのか。

会 長：ただ選んだ花が間違っていたというだけで。

委 員：ごみの除去やナガエツルノゲイトウの除去などで色々と苦勞されているのは分かるが、少し違うのではないかという気がしている。

委 員：すなわち、話をするときにも、環境のことを配慮できるような形で、こちらからも情報発信が必要ではないかということを行っている。そこで一つ助言があれば、これではなくこういうものを植えれば良いのかということが出来ると思うし、それを続けることで次には配慮されたものが植えられるのではないかと思う。

委 員：ハクチョウに餌をやるのはどうか。ぶらり川巡りさんがやっているわけではないのか。コブハクチョウは要注意外来生物である。

委 員：そういうことをやられている方は知らないと思うので、そういうことであれば、こちらからその団体に通知するなりした方が宜しいのではないか。

委 員：そういったシステム作りは市役所と観光協会などでなかったのか。

委 員：観光協会も、市役所の中で観光課がきちんとついている。

委 員：ただ、申請して、お金を頂いて、中身はお任せという感じになってしまっているのか、やるのであればこういうことに気を付けてという条件をきちんと付けているのか、その辺りが定かでないのかと思う。

委 員：予算が市からの補助金と自己資金という形で用意され、運営されており、あとは川巡りの収入から運営されていると思うが、どう何を使うというのは営業方針の中で判断されることなので、環境に配慮した形のものでというのがこちらから担当課に行って、担当課からその組織に行って、情報発信していければと思う。

会 長：要はコミュニケーション不足である。

委 員：しかし難しいと思う。私もよく知っているが、黄菖蒲を植えてはいけないとは言えない。

委 員：情報を知らないとそれで良いのだと思ってしまう。そのため、今は実際に植えられてしまっているが、本当はいけないということを書いてあげることも大切である。

会 長：もし、これを発案された方の意見で、これを直すというのであれば、今の趣旨を踏まえて直したものを出して頂ければそれで良いかと思う。

委 員：私の気持ちは今ここに書いた通りである。環境を踏まえて、また印西市には入れてはいけないものがあってということであれば、正しい文章は私には書けないので、どなたか作ってくださる方がいればお願いしたい。

委 員：例えば、右の方の掲載案はそのまま生かして、「ただし」と付け加えて、水辺の植物種については在来種を中心に植栽してくださいなど、を加えれば良いのではないか。

委 員：私は印旛沼を推したいので、やるのであれば印旛沼も入れてほしいと思う。

- 委員：やはり水辺が沢山ある印西市は、もっとその水辺と親しむような政策に取り組みたいといった内容にしたら良いと思う。ただし、先ほど話があったように、具体的な例がないと分かりづらいというのも確かである。何を入れるかというのが難しいところである。
- 事務局：先ほどの掲載案については、意見そのままに、事務局の方で再度考えさせて頂く形でよろしいか。ハイキングなど、観光をメインで置かないような形で検討する。
- 会長：了解した。他に意見はないか。私は⑩の「SDGsを取り入れる」はとても良いと思うが、これから作る新しい環境基本計画にはSDGsのことが随分と書いてあり、すでに取り入れているのではないかと思う。
- 事務局：こちらの意見については、基本的に今ある基本計画に対してであるが、あと1年の計画にこれからSDGsの考えを取り入れるのは難しい。次期計画では入れる予定である。
- 会長：了解した。他に意見がある方は。
- 委員：⑥について、生物の生息・生育域の変化と書いてあるが、これには谷津がどうなったかということも入るのか。入るという理解であれば、私はこれで良いと思ったが、なんとなく分かりにくくはないか。
- 委員：削らずに、カッコ内の言葉も入れてはどうか。
- 委員：「谷津の荒廃状況等」か。しかし「台地の状況」も入れてほしい。要は、言いたいこととしては「谷津の荒廃や台地の開発」である。恐らく、この「生物の生息・生育域の変化」では市民に伝わらないと思う。
- 会長：これはこれで良いのではないか。括弧を取って、括弧書きの内容がもっと表面に出るようにすれば。
- 委員：もう少し分かりやすくなるように、「生物の生息・生育環境」など、「域」を「環境」に変えてもらえれば良いのではないか。本当は括弧内を入れてほしいが、時数の関係で入らないのか。
- 委員：括弧内を活かした方が分かりやすい。
- 委員：調査のことであるが、何が危機的かということは数が減っているだけではなく、環境が大きく変わっているということが大な原因である。
- 委員：事務局で文章的に良くなるようにしてもらえれば良いと思う。
- 会長：では他に意見はないか。
- 委員：⑫はどうするか。
- 会長：括弧を外し、そのまま活かせばいいのではないか。
- 委員：農業に関することは何度も話題になっていることなので、入れてほしいと思う。
- 事務局：では、⑫は括弧内の内容で白書に掲載させて頂く。
- 会長：では、他になければ基本目標2に移る。基本目標2について、事務局より説明願

う。

(事務局より、基本目標2について説明)

会 長：事務局の説明へご意見をお願いします。

委 員：⑤について、私は師戸川のことを書いたが、印旛沼・手賀沼に吸収されて表現されている。師戸川の水質悪化がとても気になっていて書いたが、ここに載せる必要はないということか。

会 長：師戸川は利根川に行ってしまうのか。

事務局：印旛沼である。

委 員：「印旛沼」と書けば、この中に師戸川も入ってくるという理解で良いのか。

事務局：その通りである。

会 長：関連があるので、それで問題ないのではないか。

委 員：師戸川は今一番問題になっているところであり、この意見の中でも結構出ている。

委 員：数字的にもかなり悪化しているということで、あえて指摘した。しかし、この中に吸収されていて、どうかと思った。

委 員：「とりわけ師戸川は」と入れたいということか。

委 員：そうである。表現を掲載案の中に残したい。

会 長：要は師戸川が印旛沼の汚染の要因の一部になっているから、師戸川の方をもっとしっかりやって下さいという表現にすれば良いか。事務局はどうか。

事務局：この文章の中に、「師戸川をはじめ」といった形で入れさせて頂く。

委 員：そうすると白書の結果を踏まえた形の提言になると思う。

会 長：ではそのようにお願いします。次にPM2.5について、これは印西市で観測しているのか。

事務局：印西市ではなく県で観測している。

会 長：PM2.5は白書に載っていないか。

事務局：PM2.5は白書に掲載していない。

会 長：ダイオキシンの光化学オキシダントは載っているが、注目されているPM2.5はなぜないのか。PM2.5が1年間どのように変化していたかの経年変化を、どこの測定局かは固定しないとならないが、白書に載せるべきだという意見を私は白書に出した気がする。この白書の掲載案を見ると、PM2.5を印西市が観測しますということではないのか。

事務局：そうである。しかし、測定局は市内にあるので、結局は同じではある。

会 長：PM2.5のデータは環境白書に載せた方が良いというのが私の意見である。自分達では測っていないから入れないというのではなく、注目されているデータでもある。ただし、印西市が原因でPM2.5が悪化しているとは思っていない。オキシダントも同じである。

委 員：⑧、⑨、⑩のグリーンインフラについて、グリーンインフラは多機能性に特徴が

あり、一言で言うと「自然を活かした魅力あるまち」といったイメージである。自然の力を賢く活用する、土地利用選択のようなものであるが、基本目標2に限定してしまうと、グリーンインフラの持っている多機能性を限定的に表現することになる。出来れば、基本目標1～5のすべてにグリーンインフラが役に立つということが表現できれば本当は好ましい。日本全体で言えばグリーンインフラは防災の分野で語られることが多いが、印西市の場合、グリーンインフラに対する防災のニーズは恐らくあまりない。どちらかと言えば、基本目標1の自然共生を守ることにすごく役立つ。また、景観が美しくなるので、都市としての魅力が高まるという点では基本目標3にも通じる。また、基本目標4の低炭素にも役立つ。都市が涼しくなることで環境負荷が低減される。基本目標5のパートナーシップもそうである。グリーンインフラの最大の効用は、単に自然の力を引き出すだけではなく、みんなで参加してまちづくりに繋げて一番価値が発揮される。そういう意味で、基本目標1から5までのすべてを貫く、そういった性質のものではないかと思うため、もし防災に限定してしまうと、自分とは関係ないと捉えられがちになってしまい、基本目標2に留めてしまうのは勿体ないと感じた。

会長：ただ、表現は難しい。仰っていることはよく分かるが、事務局としては、環境白書へどのように取り入れるか。

委員：別枠で、基本目標1から5共通のような項目があれば入れやすいと思う。それがグリーンインフラの最大の魅力である。

会長：グリーンインフラについて、印西市にとって最大の課題はどこの分野になるか。

委員：基本目標1と3であると思う。基本目標3では市の魅力が高まり、住みたいまちとなる。シティープロモーションにとっても有効である。

会長：グリーンインフラの意見も沢山あるので、すべてを基本目標3に移行するのも大変かと思う。

委員：大項目として載せられないのならば、それぞれに1項目、例えば最初のところであれば農業関係の⑩に追加して入れることが出来ないか。

委員：そういった形でそれぞれに小さく掲載という方法もある。グリーンインフラという項目を立てるのではなく、それぞれの意見にグリーンインフラという用語が入っている。

委員：都市のところにグリーンインフラを書き忘れてしまったが、ここは大きいと思う。

会長：そういう項目が結構あると思う。例えば温暖化についても、温暖化だけでなくほかの分野とも大なり小なり関連がある。しかし、それをすべて書けというと大変なので、何か良い案があれば良いと思う。

委員：分類というものがもう固定された枠組みだとすると、例えば基本目標3について、都市としての魅力の中に景観がある。都市の魅力の要素としては、やはり綺麗なまち、美しいまちである。それは欠けるべきでない評価項目であり、景観面はも

し、新たに入れるのであればそこにグリーンインフラという言葉も含まれるかもしれない。景観がなぜ環境なのかというと、自然環境、自然景観というのが環境でもある。美しい景観というのは豊かな自然環境を持っているまちは景観的にも良い。環境と景観は結び付くと思う。

委員：そうである。基本目標3には監視カメラや交通はあるが、景観的なことはなく、入れてほしいと思う。

会長：景観というのは難しいと言えれば難しい。

委員：私たちが今付き合っている生き物の活動というのは、生きもののための環境をつくっており、そうすると草を刈ったり、竹を切ったりするので景観は良くなる。湿地もきちんとした湿地になる。

事務局：それでは、⑧のグリーンインフラはこのままとする。⑨は基本目標3に移し、⑦、⑧の都市開発と一緒にグリーンインフラについても触れる。基本目標2の⑩については、元々基本目標1にあったため、戻すとするのではいかがか。

会長：了解した。

委員：基本目標2について、意見を出し忘れていた。土砂崩れについて入れてもらえたらと思う。印西市には崖を抱えている家が多く、先日の広報には、未だに道が改善されていないなども載っていた。

会長：どのような文章とするか。

委員：少々考えたい。

会長：要は山崩れの起きそうな場所は、事前に点検して直してほしいということか。

委員：それは市であまり関わってくれない部分もあり、県も、そこに沢山の人が住んでいけば公共的なものになるという感じである。直してもらえれば一番有難いが、直せなくても、どこで土砂崩れが起きやすいかなどを調査してくれているのか、そういうことが知りたい。

会長：そこに住む住民にとっては非常に重要な話である。他になれば基本目標3に移る。

(事務局より、基本目標3について説明)

会長：①から④は不法投棄が中心となっている。これは一つの文章にまとめられないのか。

事務局：掲載案ではまとめている。

会長：左の「意見」は出さないで、右の「掲載案」のみ出すということか。ならば良い。

委員：⑤について、今はコロナでやっていないが、月1回でクリーン推進デーがある。それをまだ増やしてほしいという意味なのか。

会長：あれを年4回に増やせということでは。

委員：ゴミゼロ運動は印西市全体で取り組むものである。それとは別に、毎月クリーン推進デーをやっており、結構回数はあると思う。

- 会 長：毎月やっているのは、その自治体もしくはお年寄りの会などがやっているだけで、全員でやっているわけではない。
- 委 員：うちもやっていない。ごみゼロも年1回になっており、年2回もやっていない。
- 会 長：本来は年2回やることになっているが、今年は年1回になっている。
- 委 員：いや、この辺は年1回である。
- 委 員：それは町内会としてやっていないだけである。
- 委 員：うちの方も年1回である。
- 会 長：全員で参加するのはクリーンデーとゴミゼロ運動の2つがあった。
- 委 員：全員で参加するのは5月30日の1回、それと10月に1回である。市としては取り組んでおり、それに乗るか乗らないかは町内会による。
- 事務局：ゴミゼロ運動はつい最近だが年1回になっていると思う。また、今年は市のゴミゼロ運動はやっていない。
- 委 員：ではこれはゴミゼロ運動を年2回に戻してほしいということか。
- 委 員：今は掲載案を検討しているので、このままで良いのではないか。
- 会 長：確かにそうである。あれは回数を増やしてほしいくらい、とても良いと思う。
- 委 員：空き家が非常に身近に感じられる。空き家が非常に増えており、植木が庭から道路にはみ出ていたりする。
- 会 長：地域をよく見る良い機会かもしれない。廃棄物は掲載案の中で集約するとする。他に意見のある方は。
- 委 員：⑭について、「地域のお年寄りから話を聞ける活動」とあるが、地域のお年寄りという固有名詞はどうなのか。こういう組織や団体として、印西市にずっと代々住んでいる方がいて、そうしたレクチャーが出来る横のつながりがあるのかという質問である。
- 委 員：私も印西市に住んで55年であり、私で8代目となる。私は小林であるが、印西市に住んで20代以上続いているという家もある。永治地区には30代以上という家もある。おじいさんたちと一緒に飲んだ時、おじいさんたち同士で話をしているが、そのおじいさんがおばあさんから聞いた話をしている。小林には沢山「屋号」というものがあり、同じ苗字が沢山あっても屋号で家の古さが分かる。どこかの地域では、家の前に屋号の看板が出ていて、それが一つの町おこしとして、歴史を感じるものになっている。おじいちゃん達に、屋間に私が話を聞きにいても門前払いになってしまう。中学生くらいのお子さんが、部活動の一環として地域の歴史を学ぶとして、おじいさんの話がどのくらい本当かは分からないが、地域の昔話くらいの感覚で、各地域のそういうことを調べあげると、子供達も自分たちの住んでいる地域の歴史を知ることによって、将来東京に出てもまた戻って来てくれるかという意味合いも込めている。
- 委 員：私はこれをとても良いと思うが、それはサークルのように、昔話を語れる人たち

が固有名詞であるのかということを知りたい。

委員：自分の地域は大体わかるが、他の地区となると地区の古い方に聞かないと分からない。

委員：地元の農家の方と話をすると、昔は魚の名前も全然違い、そういうことを伝えていくことが非常に大切であり、特に千葉ニュータウンの人は自分のルーツがないから本当に知らない。季節ごとの小さな行事があったりして、印西市はこうだったんだということを知ると、誇りを持てるようになる。

会長：愛着である。

委員：特に最近使わなくなったが、訛りがなくなりつつあり寂しいと思う。

委員：『そうふけばらのきつね』という絵本があり、印西市の訛りで書いてあるが、それを読み聞かせする人達が、訛りが分からないため現代文に訳して良いかと私の所に聞きに来た。それは違うでしょうとなったが、印西市の訛りを本当に聞くことがない。

委員：中学校と言わず一般の人も聞けるように、市内のイベントとして企画してもらくと、聞きたい方はたくさんいると思う。

委員：印西アカデミーとかはどうか。

委員：印西アカデミーは勿論だが、やはり固定されるので、広報にイベントとして載せてほしい。

委員：ただし、私とかが話を聞きに行くのと、お孫さんのような子供が来るのでは、話す顔つきも違うし、教えてあげようという気になると思う。

会長：これは実行するとなると結構大変だと思う。お年寄りもそのうち亡くなってしまおうし。しかし、文章としてうまく活用したいと思う。

委員：実際にそういった昔話を語れる方がいるのか。

委員：沢山いる。話しているそのおじいさんも「それは文献に残した方が良い」と言っているくらいである。しかし、その人が亡くなったら終わってしまう。

会長：そういった昔話を残すことはとても大切かもしれない。

委員：元印旛高校のあったところに資料館が出来て、そこの職員の人たちとタイアップしてやってくると良い。しかし、学校に関連する話だと教育委員会の承認が必要なので、そこに連絡を取り、校長に言って、各学校という流れになるかと思う。

会長：時間もないし、なかなか大変である。

委員：やる場合は1時間とか、無料のボランティアでお話いただくのか。予算取りはしなくて良いのか。

委員：いつもボランティアである。

委員：今、文系の部活動というのは段々となくなってきていると聞いた。昔は歴史研究倶楽部とかあったが、最近はなくなっている。校長先生に話をしたことはあるが、なかなか立ち上がらない。校長先生のやる気ひとつである。印西市全体ですの

はいいが、学校単位となると校長先生の参画がいる。

委員：クリーンアドバイザーという形で、おじいちゃんおばあちゃんでお話上手な方をプールして、月の手当を支払いますといった形で、中学校や小学校に行ってお話をしてもらおう、という提案はどうか。ひたすらお話し好きのおじいちゃんおばあちゃんに頼むというのは長続きしないのではないかと思う。ワンショットのイベントではなく、やはり継続性が大切だと思う。

事務局：市としては生涯学習課が担当になるかと思う。

委員：こういうところで、語り部をキープするような取り組みを予算化してみてもいいか。

会長：これを上手く表現できないか。

事務局：では、現在の掲載案より、広く一般で実施できるような、そしてそういった仕組みをつくるような内容で修正する。

会長：ふれあいバスについて、便利に使いたいというのはとても良いが、ただ闇雲にバスの便数を増やすわけにもいかない。成田市は今年から「デマンドバス」というものをやり始めた。確か65歳以上の方が対象で、時間や場所の予約をすると迎えに来てくれる。ただし、個人は駄目で、集団でないといけない。確か2人だとタクシーで、多いとバスになる。行き返り送ってくれて、1回当たり500円くらいである。お金はかかるが、交通の便の悪い所に住むお年寄りには便利だと歓迎されている。印西市でも私の家の近くにそういう人がおり、しかし頼めなくて、私の家に車を出してくれないと言われて、病院まで連れて行ったことがある。これからお年寄りが増えるため、そういった要求も増えると思う。だからデマンドバスの活用が必要ではないか。市は何か考えているか。

事務局：交通政策の話になると思うが、本埜地区については、電話をかけて迎えに来てもらうような仕組みが地区限定だがあると聞いている。ただし場所は病院へ行ってくれなど、そういうのではないかも知れない。一応、あまりバスが出ていない地域についてはその様な仕組みがある。

会長：確かにデマンドバスを制度化しても、お客さんが来なければ運転手はただ遊んでいるとなってしまう。そういう問題もあり、本当にどの地域に必要かというのは、事前にかなり調査しないと導入できないと聞いたことがある。ただしこれは、そういう方向に行っていきたいと私自身は思っている。「デマンドバス」をどこかに書ければ書いて欲しい。

事務局：デマンドバスは基本目標4に掲載されている。

会長：書いてあるならば結構である。次の基本目標4に移る。事務局からの説明をお願いします。

(事務局より、基本目標4について説明)

委員：⑬に書き忘れたことがある。以前から、幼稚園、小学校、中学校に手動式の井戸

を設置してほしいという話をしており、「適応策の具体化・普及」のところに括弧書きで手動式の井戸について加えてほしい。

委員：聞いた話だが、学校に隠れた井戸があるらしい。

委員：公でないとみんなが使えない。

委員：公にされない理由は分からないが、井戸を掘ったところがあるというのは聞いたことがある。それを公にして、災害の時に使えるのではないかという話もあったと思うが、なかなかその話が出てこない。

委員：私がなぜ意見として書かなかったかということ、市長が市長選挙の時に訴えられ、当選されたからそれはもう生きるのだなと思い取り下げた。

会長：選挙の公約で井戸を学校に作ると言っていたのか。

委員：そうである。そして当選されたので、井戸を掘ってくれると自分の中で解決してしまった。しかし、そういった話がどこにも出てこないの、紙面に残しておかなければと思う。公立の学校関係には手動式の井戸があるらしいということが災害時に市民の頭にないとだめで、トイレと水が災害時には一番大切だと思う。飲めない水でも良く、手を洗ったりできる。一番良いのは各自治体、みんなの近くにあることだが、そうなるとお金の問題がある。災害時に公立の学校であれば水が使える状態になれば良い。飲み水は市から提供されるものを飲み、生活用水は井戸があるとなれば安心である。

委員：これは気候変動なのか。防災ではないか。

委員：それが必要なのは、気候変動で台風や地震があったときのためである。

委員：しかし防災に近くないか。気候変動は温暖化とかではないのか。

事務局：気候変動については、温暖化に関連して起きるものではあるが、防災は入る。適応は、台風などの既に起きてしまった温暖化の影響を軽減するためのものであるため、災害に対する備え、防災をしておくことは取組の一つになる。

委員：了解した。

会長：印西市として2050年二酸化炭素排出量実質ゼロが掲載案にあるが、市長が表明すればここに書くことはない。11月17日に市長へこれを訴えに行った。その後どうなっているかを、今日聞こうと思っていた。全然目がないというならここに書く。というのも、この近くでゼロカーボンを表明する市が出てきている。日本のうち70%くらいの市町村が表明しており、放っておけば、そのうち印西市が最後になってしまう。それはあまりにも酷いので、表明するのであれば早くしてほしいと市長には伝えた。あの時はまだ60%くらいで、その後千葉市や八千代市、成田市が表明した。周りが表明する中、残っていたら恥ずかしいと思う。そこで表明するというならば、ここに書く必要はない。

事務局：まず、このまま表明するよりは方向性を示してからという話になった。表明する、しないという話ではなく、表明した後市として何が出来るかがないと、絵に描

いた餅になってしまうため、そこをよく検討したいとなっている。検討はこれからのため、表明はまたその後となる。

会 長：随分後になるのではないか。そこまで他の市町村は出していない。ただ決意を市長が述べるのに意味があるということである。だから、どうやったらゼロになるかということを実際に検討していたら、いつになるか分からないため、それは止めた方がよい。最近マスコミでも言われているが、二酸化炭素をゼロにするには、ガソリン車が 2030 年から 2035 年には廃止になる。それが国際的な動きであり、東京都でも 2030 年には新しいガソリン車は販売禁止ということを行っている。そうすると今は電気自動車しかない。充電器がある家は良いが、私はマンションに住んでおり、離れた場所でないと充電する場所がない。そうすると、今後はそうしたインフラをどんどん開業していかないといけない。そして、そういった時間を考えると、あまり余裕はなく、すぐ取り組む必要がある。市もそういう方向性に行かないと、とても遅れた市になる。何をするかは簡単で良い。

事務局：表明に関わらず、取り組むことは同じである。

会 長：それはそうである。しかし、それを言ってしまうと、表明しないと遅れる。また、国や県の見目が違う。補助金を欲しいといっても、まだ表明もしていないと言われてしまう。ある県の温暖化の担当者が言っていたが、表明する、しないでお金の出方が違う。

委 員：私たち市民会議の方では、市長に要望すると決めたことなので、書いていても良いのではないか。

会 長：すでに 2、3 日後に表明されるのであれば必要がなくなる。

委 員：そんなことはないので、書いておけば良い。

会 長：もし入れられるのであれば、市の車をすべて、2050 年までに電気自動車へ変えるなども入れて欲しい。それをするには、まず市の公用車をこれから電気自動車に切り替える方向にいかないとまずいかと思う。それを文章に入れてくれないか。

事務局：もう文章に入っている。

会 長：了解した。では次に移る。基本目標 5 について説明願う。

(事務局より、基本目標 5 について説明)

会 長：私は温暖化防止印西という市民活動をやっているが、小学校、中学校に環境教育をしたいと言っても、小学校の校長先生に言ったら、教育委員会に言ってくれといわれ、教育委員会では学校の先生に言ってくれと、たらい回しに遭い、結局反故になった経緯がある。小学校の先生はカリキュラムが多くて大変であり、そこに新しいものを入れるのは難しいと愚痴をこぼされたこともある。そうは言っても、環境関係で最重要の課題は温暖化防止だと思う。今の子供達は今後厳しい環境で生きていくため、これは必須だと思っている。そこまで教育委員会や市が考えてくれるかどうか、そこがポイントかと思う。では、特に意見がなければ基本

目標5はこの通りとする。事務局より、その他についてお願いする。

②その他について

(事務局より、資料1、資料2、資料3について説明)

委員：資料1について、SDGsの図をウェディングケーキ型にして頂けたらと思う。一番下に、海や環境が大切だと分かるようになってほしい。また、アンケート調査結果を見て思ったのが、みんな里山やみどりが綺麗なことを一番上に入れていのに、環境行動や啓発、市民活動に興味があるというのは一番下である。ということから、今後の印西市の啓発目標としては、如何にそちらの方へ持って行くかとなると思う。そういう意味では、質問の仕方もごみ関連が上に並び、下の方に環境活動への参加となっており、上は気合を入れて書いても下は段々嫌になってくるというのもあるのかと思う。普通の調査のやり方としてはどうなのか。上の方に環境活動への参加を入れておけば、もう少し高い数値が出るのではないか。54頁、55頁の質問について今後参考にして頂けたらと思うが、事業者の「緑・水辺・自然を大切に作る取組」について、「所有する樹林地を良好に保つ」となっているが、ここは「周辺の生態系に配慮した植栽にする」等を入れて頂けると良いかと思う。樹林地なので植栽とは少し違うのかもしれないが、周囲の生態系とマッチしているということがとても大切だと思うので、その点が入るような聞き方にして頂けたらと思う。

事務局：頂いたご意見は参考にさせて頂く。

委員：「SDGs」と表記されていると、何と読むのか分からないという人が結構多いと言うことを先日テレビで知った。そのため、一か所で良いのでカタカナふりがなをつけることが大切かと思う。そうすれば、最近聞きなれてきているため、それとこの文字がイコールだということが分かるのではないか。

委員：資料1について、図に書いてある言葉は分かりやすいが、下にある国連広報センターの方はとても固い言葉になっていて分かりづらい。例えば、11のゴールは「住み続けられるまちづくり」が「持続可能な都市」になっている。出典の国連広報センターがそうなのは分かるが、ここがもう少し柔らかくならないかと思う。

会長：正式なものがあればそれに従うしかない。

委員：そうではあるが、「持続可能な都市」になるとよく分からない。

会長：2050年に温室効果ガスをゼロにするということが最近決まり、国際的にも公約した。この大事な話が、環境白書のどこにも載っていないということは時代遅れ、今の状況を活かしていないじゃないかとなる。それは絶対入れるべきであり、今はこういう時代なんだと示すべきというのが私の意見である。今、一番大事なことを冒頭で説明してほしい。確かについ最近の出来事なので、掲載するのが難しいというの分かるが、全世界、日本がそれで動いている。その最大の目標であ

る 2050 年ゼロにするということをどこにも書いていない、そんな環境白書があるのか。

事務局：これは去年の事業についての白書になるため、それ自体を入れるところはない。

会 長：そうではなくて、一番出だしの端書にそれを入れることはできないかということである。

委 員：会長はずっと仰っているが、それはつい最近のことである。私としては、市が 2050 年温室効果ガスをゼロにするということを表明してからでないと、白書に入れるのは難しいのではと思う。また、環境保全はそれだけではない。

会 長：それはそうであるが、これは今の時代で一番大事なことである。しかも、つい最近発表されて、全世界も日本もその方向に動き出している。それなのにその言葉が一言も入っていないというのは、やっぱりおかしい。出来る出来ないは関係なく、今はそういう時代だということを最初の出だしに入れるべきだと思う。

事務局：先ほど述べた通り、昨年やった事業の内容がメインになるため、市長の言葉に入れることは可能であるが、本編の中に入れることは難しい。

委 員：例年、市長の言葉はあるため、その中にその文言が入ってくるようにすればいいのではないか。

会 長：できればその時に、すでにゼロカーボンシティを表明した風にしてくれれば良い。それがないと、日本や都は動いているのに、印西市は何もしていないということになってしまうので、それはまずい。こちらで議題を終了とする。

以上

令和 2 年度第 2 回印西市環境推進市民・事業者合同会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和 3 年 1 月 2 5 日

印西市環境推進市民会議 委員 橋本 千代子

印西市環境推進市民会議 委員 平林 光子